

平成27年度第1回国史跡武蔵国府跡保存整備活用検討会議 会議録

■日時：平成27年7月27日（月） 午前10時～11時30分

■会場：府中市立ふるさと府中歴史館3階

■出席者：（敬称略）

[委員] 亀山 章、坂詰 秀一、佐藤 信、野澤 康、藤井 恵介、大室 容一、大津 貞夫、川崎 徹、猿渡 昌盛、濱中 重美、中川 健介、町田 昌敬、佐伯 富丈（今坂委員の代理、府中市生活環境部経済観光課長）

[指導助言] 伊藤 敏行

[事務局] 後藤部長、江口課長、黒澤課長補佐、和田主査、小林
（以上、文化スポーツ部ふるさと文化財課）

[オブザーバー] 新倉 竜祐（JR府中本町駅長）

[コンサルタント] 株式会社歴史環境計画研究所 秋山

■欠席者：（敬称略）

[委員] 田中 篤也、長島 剛、中村 義博、岡野 光男、今坂 英一、雫石 明男

[指導助言] 山下 信一郎、市原 富士夫、深澤 靖幸

■傍聴者：なし

■議事日程

- 1 開 会
- 2 文化スポーツ部長挨拶
- 3 議 題
 - (1) 国史跡武蔵国府跡（国司館地区）保存・活用・整備に伴う基本設計（案）について
 - (2) その他
- 4 閉 会

■配付資料

- ・国史跡武蔵国府跡（国司館地区）保存・活用・整備に伴う基本設計（案）の概要について

■会議録

- 1 開 会

事務局の司会により、午前10時に開会した。

2 文化スポーツ部長挨拶

3 議 題

(1) 国史跡武蔵国府跡（国司館地区）保存・活用・整備に伴う基本設計（案） について

<会 長>

それではまず、事務局より資料の説明をお願いします。

<事務局>

[事務局より、配付資料に沿って説明]

<会 長>

ありがとうございました。

これまで文化庁・東京都の助言指導のもと、本計画を進めてきた。市の内部でも、市全体の施策の中に本計画を位置づけるため調整を行い、市として前向きな姿勢で取り組んでいると聞いている。また、市の文化財保護審議会においても審議を行い、意見を賜ってきた。これらを踏まえて本日の基本設計（案）が提示されたものである。

それでは各委員から質問・意見等があれば承りたい。A委員いかがですか。

<A委員>

5点述べる。

① 史跡の「駅」という名称について、「駅」という言葉にどのような意味を持たせているのか。「道の駅」「～の駅」という使われ方もあるが、実際にJR府中本町駅に隣接しているし、明治時代に府中が「府中駅」という地名で呼ばれていた時期もある。どういう意味での「駅」なのか明確にしておかないと、後に混乱を招くのでは。

② 資料中に府中御殿について明示されていないが、府中御殿関連遺構の整備についてはどうなるのか。

③ まちづくりの観点において、周辺地域に対して何を求めていくのか。敷地内のことと、資料15～16ページにある広域的な取り組みについては明示されているが、その中間にあたる周辺地域の扱いについても示してほしい。また、用途地域の扱いについても検討の余地があるのでは。

④ 植栽のシラカシについて、樹種に異論はないが、きちんと管理しないと大きく成長してしまう。手間がかかる樹種であることを念頭に置くこと。

⑤ 図面で見づらい箇所が一部あるため、見やすく整理すること。

<会 長>

④のシラカシの管理については、事務局と文化財保護審議会の植物分野の委員とで、相談しながら進めていくようお願いする。

③の都市計画に関することについて、事務局いかがですか。

<事務局>

③については都市整備部計画課と、既に連携を取りながら動き始めているところである。詳細については今後実施設計を進めていく中で詰めていく。

①については、国分寺市が「まちの駅」の制度を活用し、全国で初めて「史跡の駅」の認定を受けたものであり、国府・国分寺繋がりでの連携を今後さらに深めていく意

味も含め「武蔵府中 史跡の駅（仮称）」という名称を提示したものだが、あくまで現段階では仮称なので、正式名称については今後委員及び市民の意見を取り入れながら検討していく。また、文化財の正式な名称としての「国史跡武蔵国府跡（国司館地区）」については変わるものではないので、「武蔵府中 史跡の駅（仮称）」は愛称・キャッチフレーズのような位置づけであるをご理解いただきたい。

②の府中御殿の遺構については、2期工事のにぎわい創出ゾーンの実施設計の段階で、御殿の井戸跡の扱いを含め、検討していく。

< A委員 >

わかりました。国分寺市との連携、また、計画課との連携について、しっかりと進めていただきたい。

< 会 長 >

ありがとうございました。続いてB委員いかがでしょうか。

< B委員 >

これまでの成果を踏まえ、大変よく練られた案になっていると思うが、いくつか要望を述べたい。

この史跡で何を一番見てもらいたいのか、といえばやはり「国司館」であり、「国司館」を正しく理解していただくということだと思う。全国的に見ても、国府や国庁の整備事例はあるが、国司館をきちんと整備することができる可能性があるのはこの場所しかない、府中市にしかできないことだと思う。

国衙地区の史跡整備地はあるが、武蔵国府の国庁の整備にはまだまだ時間がかかると思う。国司館は国庁に匹敵する重要な施設であり、国司館を理解することが古代国家の理解へとつながるものである。規模や立地条件を含めて理解してもらうためにも、できれば正殿の実物大復元をしてほしかったが、条件があってそれができないとのことなので、1/10 スケールの模型を作って、脇殿の西側に設置ことを提案したい。また、国司館の建物そのものだけでなく、国司館の空間としての広がりを感じられるように、例えば図のグレー（石貼り）で示されているゾーン（国衙地区連携ゾーン）についても、材質はともかくとして芝生と同じような緑色にしてはどうか。

また、資料 15・16 ページにあるように、周辺の歴史文化遺産のネットワーク化を検討されているとのことだが、武蔵国内に 21 ある郡との連携、関東地方の他の国府との連携も含めて、ハード面の整備のみならず、ソフト面についてもさらに具体的な検討を進めていただきたい。なかでも国分寺市との連携は、東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、特に重要だと考えている。

< 会 長 >

ありがとうございました。

B委員から、1/10 の模型の設置、という提案をいただいた。これについては、1/10 というスケールが妥当であるかどうかを含め、2期工事でのにぎわい創出ゾーンの整備を見据えた全体の活用計画の中で、検討をしていきたいと思う。B委員、そういうことでよろしいですか。

< B委員 >

わかりました。

<会 長>

続きましてC委員、いかがでしょうか。

<C委員>

5点述べる。

① 先ほど「駅」という名称についてA委員から指摘があったが、国分寺の「史跡の駅 おたカフェ」は、あの施設単体を指しているのに対し、「武蔵府中 史跡の駅（仮称）」はこの史跡全体を指しているのので、名称については整理が必要だと思う。

② 8ページに「奈良軸」「江戸軸」という用語があるが、これについて説明がなかったのので補足をお願いします。

③ 原則として夜間は閉鎖するとのことで、管理上仕方がないのかな、と思うが、史跡とはいえ市民にとっては公園のような場所でもあるので、早朝・夜間の扱いについては検討の余地があるのでは。

④ 新庁舎の基本設計は業者の選定が進んでいるところだと思うが、新庁舎の設計次第では京王線府中駅とJR府中本町駅のつなぎ方も変わってくるはずなので、新庁舎の設計に関してはふるさと文化財課としても積極的に意見・要望を出してほしい。

⑤ 都市計画に関わる部分については既に計画課と連携しているとのことなので、よろしく願います。用途地域に関しては、史跡のことを考えると少しダウンゾーニングするのが望ましいだろうが、駅前の利便性の高い場所であり、それによって街の活気は失われるかもしれないので、バランスが難しいし、地元の理解を得るのも難しいだろう。計画課と十分に連携を取りながら検討してほしい。

<会 長>

ありがとうございました。

「奈良軸」「江戸軸」については、事務局の説明をお願いします。

<事務局>

古代国司館の遺構は真北を向いているのに対し、府中御殿関連遺構は方位の軸が斜めに傾いている。この方位の軸をそれぞれ「奈良軸」「江戸軸」と表記している。

図中の、グレーで表されている国衙地区連携ゾーンの柱穴の遺構表示は、府中御殿の既の跡と推定しているもので、「江戸軸」を示している。また、にぎわい創出ゾーンの配置も、「江戸軸」に沿ったものである。

<C委員>

意味は理解した。ただ、一般の人には理解しづらい名称だと思う。こちらを向くと奈良が見えて、こちらを向くと江戸が見える、という意味なのかと思われてしまうのでは。

<会 長>

名称が適切ではない、ということですね。

<事務局>

「奈良軸」「江戸軸」の名称については、再検討を行います。

<会 長>

事務局よろしく願います。

続いて、D委員いかがですか。

<D委員>

感想としては、2期工事のにぎわい創出ゾーンの整備の具体的な内容がまだ見えてこないなので、整備後の全容が今一つイメージできないところもある。

遺構整備に関しても、実物大の復元はせず、柱を立ててバーチャル技術で復元する、という手法自体は同意なのだが、パース等の具体的な絵があれば理解の一助となると思う。

整備活用の提案は色々できると思うが、それがオーバースペックにならないよう注意をしてほしい。将来的な管理運営の方法まで、きちんと見据えながら検討すること。

<会 長>

ありがとうございました。E委員いかがですか。

<E委員>

3点述べる。

① 国衙連携ゾーンは多目的に使用できる広場に、とのことだが、史跡としての様々な制限があることは承知の上で、屋根をかけることはできないか。全天候で使用できれば、このゾーンがより生きてくると思う。

② にぎわい創出ゾーンは、地元の方々の興味関心が一番高いところである。今後、皆で知恵を出し合って、よりよい計画を作っていきたい。

③ 駐車場について、敷地内に大型バスの駐車場は無理とのことだが、市役所新庁舎に大型バス駐車場はできるのか。

<会 長>

ありがとうございました。

E委員より、大型バスの駐車場について質問があったが、事務局いかがですか。

<事務局>

市役所新庁舎の設計の中で、大型バスの駐車スペースについても検討しているところである。

<会 長>

バスの駐車場については事務局説明のとおりである。

全天候型の整備を、との提案があったが、にぎわい創出ゾーンの整備を検討していく中で、これについても検討していきたい。

続きまして、F委員いかがですか。

<F委員>

2点質問する。

① 「JRとの連携」が謳われているが、具体的にどのような連携を考えているか、現時点で何かあれば教えてほしい。

② コミュニティ・にぎわいの創出について、にぎわい創出ゾーンの中だけでにぎわいを生み出そうとするのは、この規模の計画では難しいのでは。たとえば、周囲を柵で仕切らずに、JR府中本町駅から大國魂神社の方まで史跡内を歩いていけるような整備は考えられるのか。にぎわい創出の手法について、どういう考えを持っているのか。

<会 長>

質問の件について、事務局いかがですか。

<事務局>

国司館を中心とした史跡の歴史的価値を高めていくことだけではなく、駅前の一等地であるという立地から、JRと連携していかくにぎわいを生み出していか、これまでも地元市民をはじめ、様々なご意見・ご要望をいただいていたところである。具体的なところは今後JRにご協力をいただきながら検討を進めたい。

また、にぎわい創出については庁内関係課とも協議・調整をはじめているが、1年を通してこの場所に人が訪れるよう、まずは既存のイベントをここに誘致することが考えられる。そして新規のイベントも立ち上げていくことになるが、まずは人に集まっていたことが第一で、史跡の歴史的価値を知っていただくことはもちろん大切だが、この場所を利活用していただくことで、史跡を知っていただき、にぎわいを創出していく、そのために庁内のみならず関係機関とも連携し、当会議の委員の皆様にも知恵を借りながら進めてまいりたい。

<会 長>

JRとはこれから2期工事の計画を進めていく中で連携が不可欠であり、よろしくお願ひしたい。

続いて、G委員いかがですか。

<G委員>

改めてこの場所の重要性を認識しているところである。まずは1期工事について、提示された設計案に特に異論はなく、しっかりと遺構の保存整備を行っていただきたいと思う。2期工事の計画について、市街地のまちづくり事業との連携、国分寺市との連携など、様々な課題が浮き彫りになってきたが、幅広く意見を集めながら、しっかりと議論しながら進めていただきたい。

国衙地区連携ゾーンについて、1期工事の中で整備を行うとのことだが、これは2期工事の方に組み込んでも良いのでは。先ほど、屋根をかけてはどうか、という委員の意見があったが、これについてもにぎわい創出ゾーンの整備の計画と合わせて、柔軟に対応し検討していくことができないか。

<会 長>

2期工事については、地元の方々の意見を十分に聴取しながらじっくりと検討していくよう、事務局をお願いします。

H委員いかがですか。

<H委員>

「電車を降りたら1分で奈良時代」というキャッチフレーズがあるが、この1期工事の設計案では、まだ「1分で奈良時代」とはいかないだろう。2期工事の計画の中で、それが実現できるよう検討していかなければならない。

資料7ページの活用カレンダーについて、より国司館地区に特化した形のカレンダーになるよう、さらに練っていただきたい。

また、まくわ瓜の話が挙がっているが、同様に、同じく徳川将軍家に献上されていた多摩川のアユについても、今後の活用の中で触れていただきたい。

<会 長>

H委員からの指摘があったことについては、事務局で検討をお願いします。

以上、各委員の意見を踏まえて、副会長いかがですか。

<副会長>

個人的には、できれば国司館を実物大で復元してほしかったと思っている。

資料1 1 ページに多賀城のAR復元の例が載っているが、デジタル技術は日進月歩で進化しているので、今後の技術開発に期待したい。

この場所だけで全てを完結させようとする小さく収まってしまうので、大國魂神社との連携は不可欠である。特に神社とのアクセスについて、2期工事の計画と合わせて検討を進める必要がある。

「史跡の駅」について、最近「道の駅」が大変人気で、府中市でも道の駅の設置を検討してはいるのだが、色々な要件があって実現していない。「駅」という呼称自体は一般にはなじみやすいもので、良いと思う。国分寺市との連携を更に深めながら、検討を進めていきたい。

<会 長>

ありがとうございました。

本日委員の皆様からいただいた意見を通して、1期工事に向けての課題が見えてきたと思う。今後実施設計を進めていく中で、これらの課題を検討していく。また、1期工事を進めながら、2期工事の、特にソフト面での活用について、広く意見を伺う場を事務局にセットしていただく必要がある。

最後に、本日文化庁の方々には欠席だが、指導助言として東京都の意見を伺いたいと思う。いかがですか。

<東京都>

先日、文化庁の調査官を交えて打合せをした際に調査官からも話があったことだが、今後のまちづくり全体の計画の中で、国司館をどう位置づけしていくのか、色々な課題がある中でそれをどう分散していくのか、周辺との役割分担を明確にすることが必要である。この場所だけで全てを担い解決することは不可能なので、その点はJRや関係機関と連携し、協力を仰いでいかなければ、周辺住民の要望に答えていくのは難しくなるだろう。

正直な感想として、文化庁も東京都も、現段階のこの計画は若干まだ「おとなしい」計画だと思っている。2期工事の計画が肝であると思うので、今後とも是非頑張ってください。

<会 長>

本日は長時間に亘り、ありがとうございました。

(2) その他（事務局より）

今年度中にあと3回の会議開催を予定している。第2回は10月、第3回は1月、第4回は2月下旬～3月上旬を予定。後日改めて全委員の予定を確認し、調整したうえで日時を決定することとした。

4 閉 会

午前11時30分をもって閉会となった。